

農技セ第6517号
平成27年8月31日

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成27年度農作物病害虫発生予察情報について

平成27年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成27年度農作物病害虫発生予報第8号

平成27年8月31日
徳島県

I. 普通作物 普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が47.8%で, 平年(26.9%)に比べてやや高めの発生であるが, 発病穂率は0.7%で, 平年(0.8%)並の発生である。

(2) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 出穂後曇雨天が続いた場合は, 穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が82.1%で, 平年(62.3%)に比べてやや高めの発生であるが, 発病度は8.8で, ほぼ平年(6.7)並の発生である。

(2) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するように, 株元をねらって散布する。

(2) 発生状況は圃場によって異なるので, 圃場を見回り, 病斑が第3葉鞘まで達している場合は, 早急に防除を実施する。

(3) 防除は県植物防疫指針に基づき, 使用基準をよく確認(収穫14日前までの剤が多い)し, 収穫時期を勘案の上, 適切な剤を使用する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.7%、株当たり寄生虫数が0.07頭)。
- (2) 石井町の予察灯においては、誘殺を認めていない。
- (3) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、被害葉率が1.11%であり、平年(24.2%、0.63%)並の発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が21.3%であり、平年(82.0%、9.7%)に比べて高めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.7%、発病果率が0.1%)。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月上～中旬におけるツヤアオカメムシの予察灯への誘殺数は、勝浦町では平年より少なめ、上板町では平年並に推移している。チャバネアオカメムシは、勝浦町では第1半句までは平年より多めに推移したが、第2半句以降は平年より少なめに推移し、上板町ではほぼ平年並に推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
8.1	17	468	99	127	123	6	3	4	1	4	6	3	4	1	4
8.2	20	228	195	280	151	7	2	12	6	5	7	2	12	6	5
8.3	8	205	212	429	264	5	11	16	6	7	5	11	16	6	7
8.4	18	264	173	289	145	4	20	7	11	15	4	20	7	11	15
8.5		135	158	219	104	5	9	7	4	5	5	9	7	4	5
8.6		59	271	75	103		22	19	2	13		22	19	2	13

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
8.1	259	194	12	77	61	25	13	8	94	25	25	13	8	94	25
8.2	87	389	66	71	94	30	22	27	21	16	30	22	27	21	16
8.3	59	289	99	71	114	15	79	52	10	25	15	79	52	10	25
8.4	40	213	132	208	168	11	62	16	8	20	11	62	16	8	20
8.5		243	137	233	130	14	25	20	16	20	14	25	20	16	20
8.6		370	420	170	210		52	66	4	26		52	66	4	26

(2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病葉率が5.7%であり、平年(58.5%、8.6%)に比べてやや低めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%で、平年(52.1%)並であるが、寄生葉率は1.2%、被害果率は0.6%であり、平年(3.2%、4.7%)に比べてやや低めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が44.4%で, 平年(13.5%)に比べて高めの発生であるが, 寄生新梢率は1.0%であり, 平年(0.3%)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの
で, 防除の際には, 葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が11.1%, 寄生葉率が0.1%であり, 平年(36.8%, 3.0%)に比べて低めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので, 防除の際には, 葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が44.4%で, ほぼ平年(30.4%)並の発生であるが, 50株当たり虫数は1.9頭で, 平年(3.3頭)に比べやや低めの発生である。
- (2) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は, ほぼ平年並に推移している。
- (3) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも, 被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに, 確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり, 食害して葉の内部に潜むようになると, 薬剤による防除効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫期に防除を行なう。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては, フェロモン剤による防除が効果的であるので, 適切に使用する。
- (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので, 早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が88.9%, 葉の被害度が5.1であり, 平年(18.4%, 0.3)に比べて高めの発生である。
- (2) 8月27日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か

低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が24.8であり、平年(97.5%, 26.7)並の発生である。

(2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、平年並に推移している。

(2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、第2半旬までは平年より少なめに推移したが、第3半旬からはほぼ平年並に推移している。

(2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査8圃場の平均)は、第3半旬までは平年より多めに推移したが、第4半旬以降はほぼ平年並に推移している。

(2) 8月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か低く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

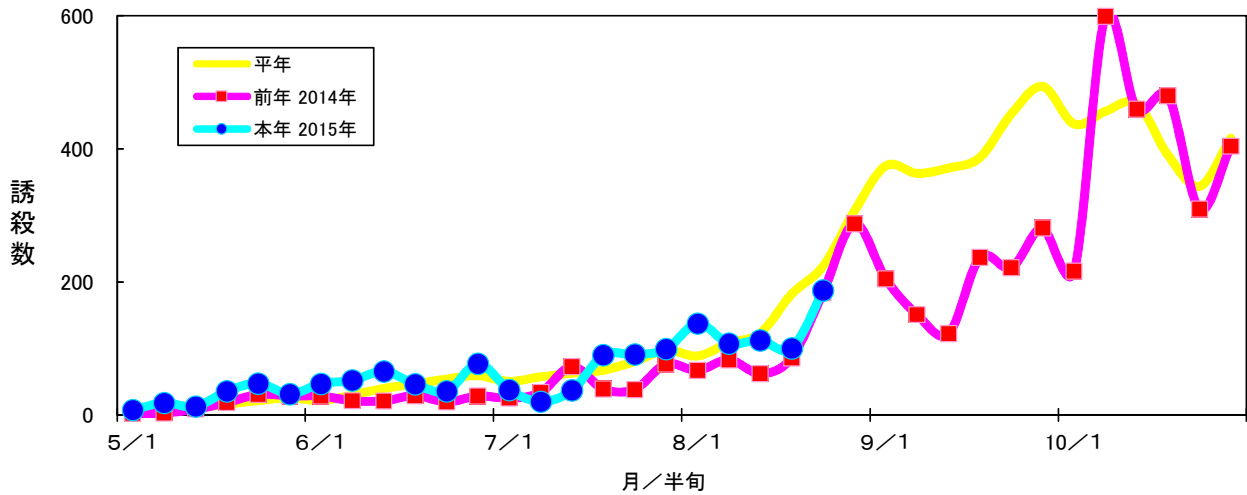
(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

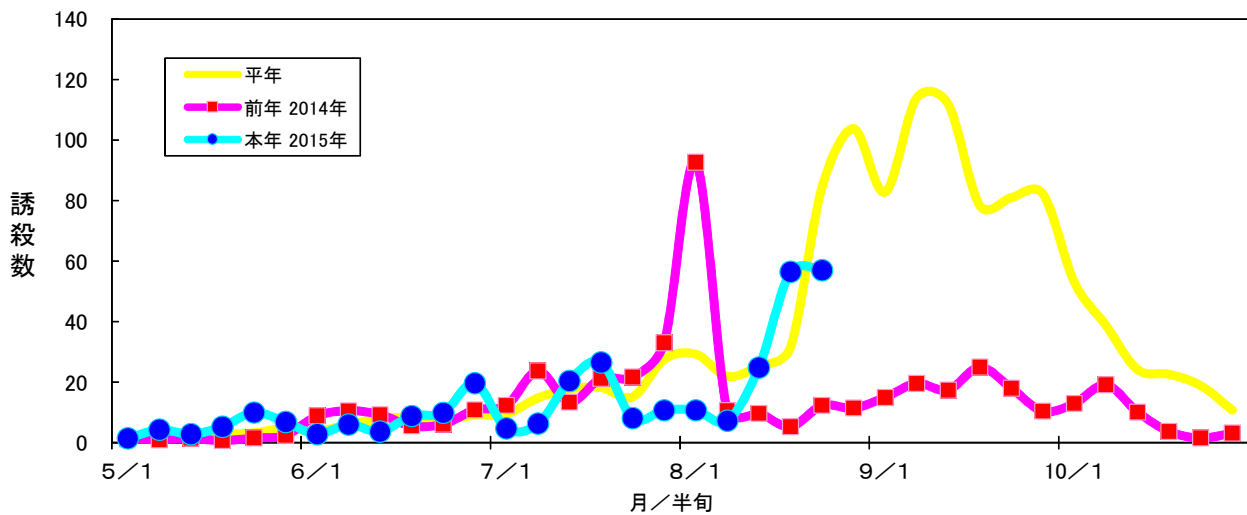
(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
8.1	138	67	73	65	89	11	93	59	9	29
8.2	108	83	146	77	108	7	11	42	16	22
8.3	112	62	227	96	123	25	10	51	31	25
8.4	100	86	294	148	182	56	5	54	25	31
8.5	187	184	480	166	224	57	12	461	26	84
8.6		288	754	296	306		11	320	104	104

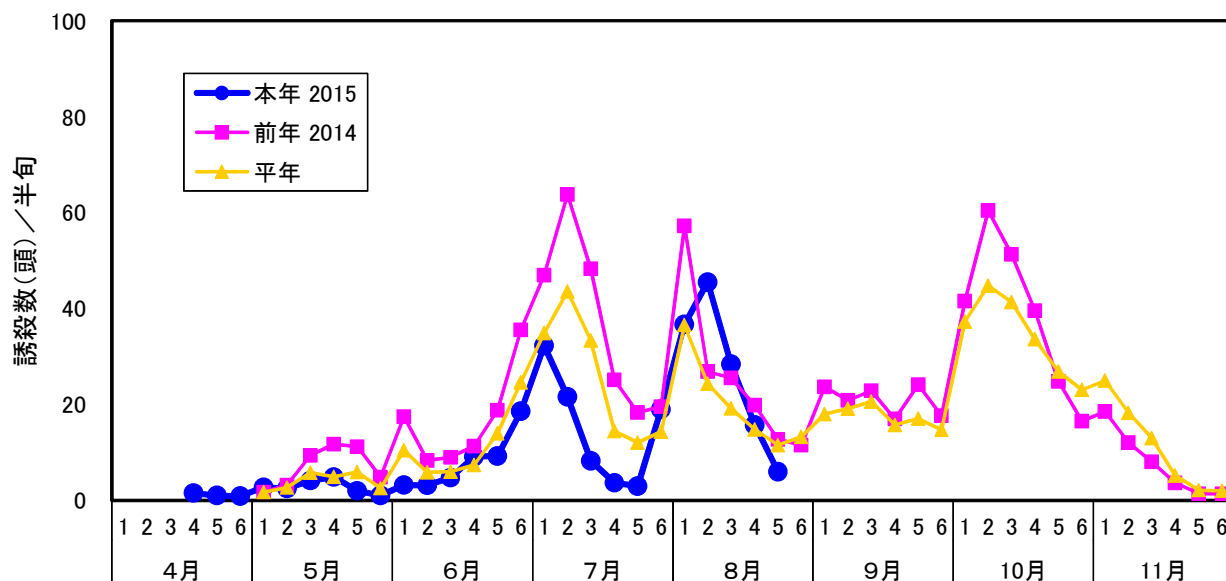
ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数 野菜圃場平均



シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数 野菜圃場平均



オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数 野菜圃場平均



調査圃場：石井町, 阿波市(柿原, 香美, 下喜来, 中原), 三好市(勢力), 東みよし町(昼間, 三加茂)

IV. その他

- 1) 防除にあたっては, 圃場をよく観察し, 適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
 URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。